稲作情報　　令和4年8月10日

飽水管理で稲体活力維持！

1　出穂期の水管理

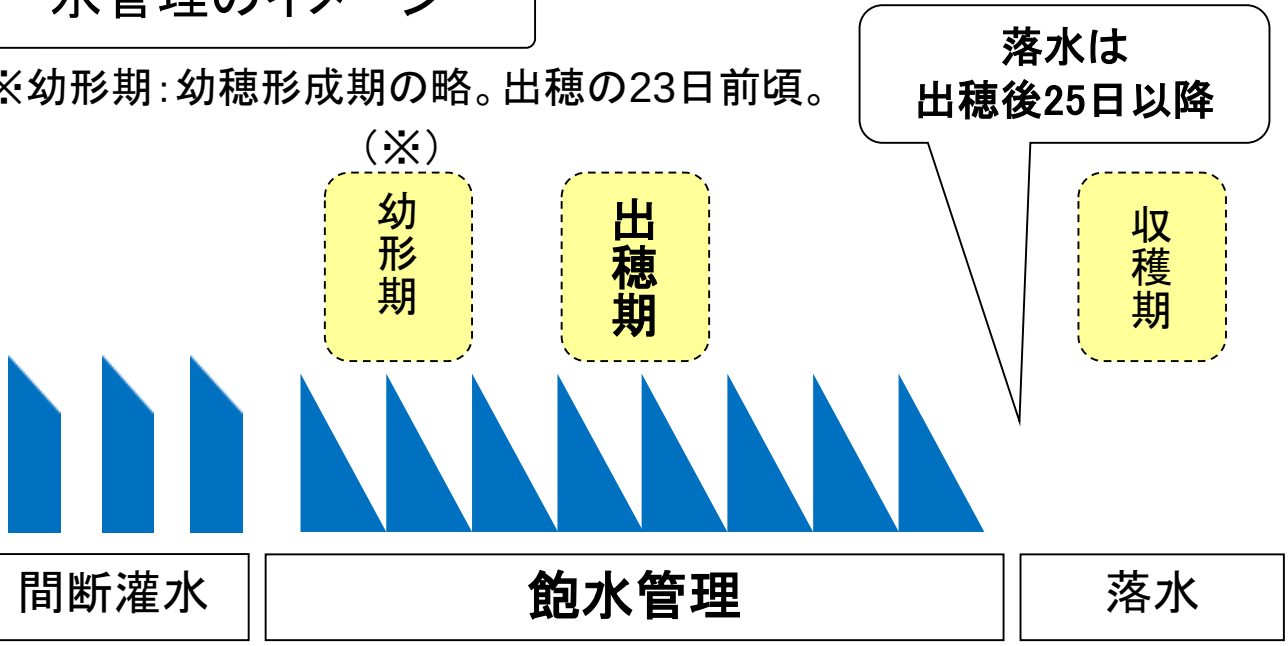
○出穂期は、5月20日頃田植えのコシヒカリで、8月7日頃です。
○8月は平年に比べて晴れの日が多く、平均気温が高い確率70%です（8月4日、新潟地方気象台発表）。
○**飽水管理（※）を徹底**し、根の活力維持と上根の発生促進を図るとともに、地温の上昇を抑えましょう。
○高温下における長期間の湛水は根腐れの原因となるので、**こまめなかん水を繰り返しましょう**。

※飽水管理とは？
水尻を止水し、自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見されるようになったら、かん水する水管理のこと。

写真：飽水管理の足跡に水がたまっている状態

水管理のイメージ

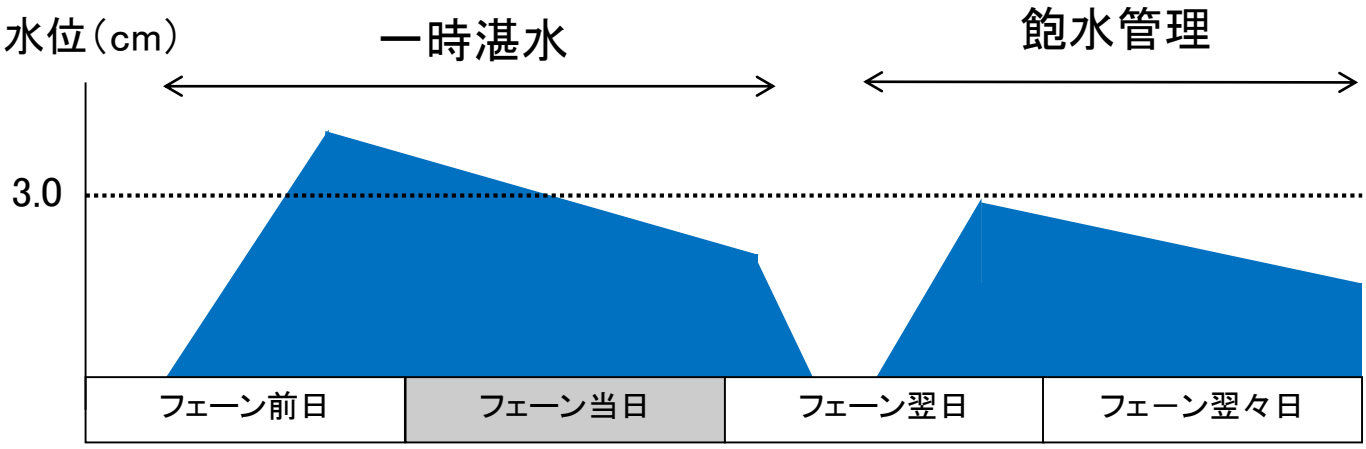
※幼形期：幼穂形成期の略。出穂の23日前頃。



フェーン・異常高温時は
こまめな水管理を！

・登熟期間中の高温と乾燥は、乳心白粒等の白未熟粒が発生し、品質低下につながります。
・異常高温による品質低下を軽減するため、地域の水利条件に応じて取水可能な用水を最大限利用し、ほ場の水温上昇を抑えるこまめな水管理を徹底しましょう。

フェーン時の水管理のイメージ



・フェーン当日は湛水状態となるよう、フェーンが発生する前からかん水を始め、水が行き渡ったら速やかに水口を止める
・湛水深は可能であれば3cm以上とする。
・フェーン通過後は、ほ場の水が温まっているので長期間の湛水は避け、できるだけ水の更新を行い、飽水管理へ移行する。
・フェーンが2日以上続く場合の水管理は、ほ場の水温上昇を抑えるこまめな水管理を行う。

JA稲作携帯メールサービス、【新規】希望者も大歓迎！
フェーンや異常高温に関する緊急情報もいち早く配信！
右のQRコードから、**ぜひご登録を**！！！

申込者用　QRコード

★ 農作業事故や熱中症に注意をしましょう。こまめな休憩と水分補給が大切です。

JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター